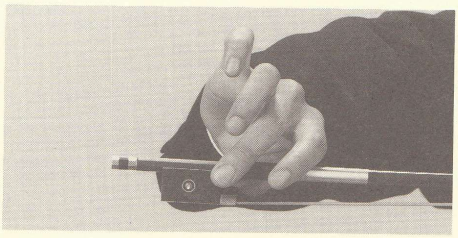
弓　の　持　ち　方

弓の持ち方は正直これが唯一正解というまでの持ち方はありません（プロでもそれぞれ自分の出したい音などによって微妙に持ち方を変えています）それぞれ個人の持つ指の長さや形によって、または流派（先生）の違いなどによって、演奏したい音によって…などで理想となるものが変わることもあります。下記ではそれらの１例を示します。

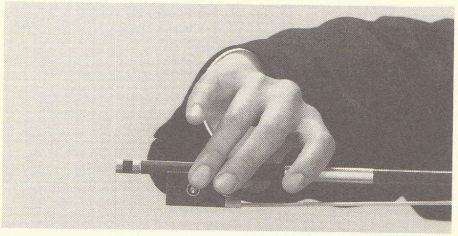
弓は演奏しているところを上級者の人が見ると、その持ち方だけで大体の上手さが分かってしまうほど表に形として出てしまうところです。色々な奏法を的確に学ぶため…というのもありますが、きちんと持っていないと、音を聞く前に上手くないんだな…と判断されてしまいます。しっかり、カッコよく持ちましょう。また、弓の使い方がかなり上手になるとアップとダウンの時に持ち方を変える（通称指弓などといわれる動作）をし、ダウン型とアップ型で（弾く弓の場所と動作により）結構形が変わる事も多いので、あまり静止画での形は全ての参考にはせず、動作の中の形の１つだと思ってください。

また、後程指１本１本に対する機能（どういう動作に使うのか、またそれらの時どのような形だと有利か、利点があるのかなど）の解説もしていこうと思います。上級者になってきたら、自分の目指す音や欠点を補う方法など自分なりにも考えていってもみましょう。

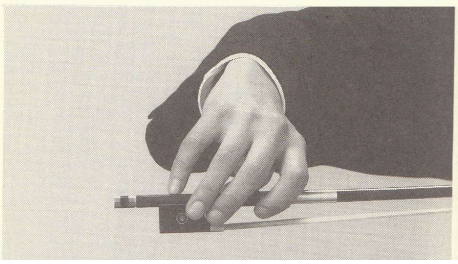
森本　琢郎　　先生（一般平均的な持ち方の１つだと思います）



1　親指をフロッグと弓木の間辺りに置き弓の反対側のほぼ同じ位置に中指。まずはこの２本でつまむように挟み込む

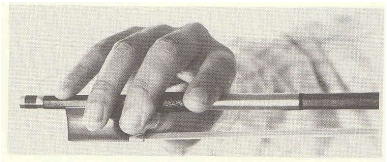


②薬指は中指に添えて。人差し指は指１本分くらいあけて、人差し指は他の指より寝せ気味に持つ

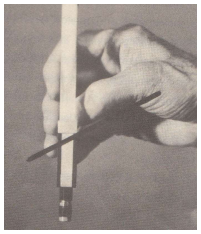


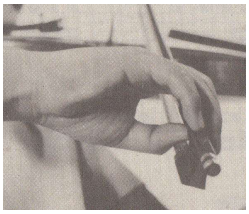
③小指も指１本分程度あけて、丸くなるように持つ（伸びきってしまうのはあまり良くない事が多いです）

小指は薬指につけて…という先生も居ました。
また、中指と薬指も多少離した方がいい（全体的に全指を開く）という方も居ます。



尾花　きよみつ　先生





スズキメソード（他の角度から見た写真）親指などの参考にどうぞ